

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：34605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K01187

研究課題名(和文) 神経発達症群に織りなされる医学理論と教育・福祉システムの双方向ダイナミクス

研究課題名(英文) Bidirectional dynamics between medical therapy and education-welfare system recognized in the supports for individuals with neurodevelopmental disorders

研究代表者

小野 尚香 (ONO, NAOKA)

畿央大学・教育学部・教授

研究者番号：70373123

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：スウェーデンにおける神経発達症群の範疇にある子どもの支援のあり方について、乳幼児期から学童期を中心として、医療・保健・教育・福祉的な施策を横断的に多角的に研究をすすめ、医学の知見がエビデンスとして応用され具現化されている現象を調査し報告した。イエーテボリ大学ギルバーク精神神経センターでの研究成果の一部を整理し、GävleborgにおけるBrygganチームの活動をはじめ、6市の就学前学校、就学前クラス、基礎学校において、神経発達症群のある子どもに対する医学的知見が活用された支援について調査し報告した。また、小児保健センターでの包括的な子どもと保護者の支援について行政資料を基に調査し報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

スウェーデンにおける、神経発達症群の子どもに対する、医療・保健・教育を横断する調査・検討を通して、生活や地域における医療的支援に含まれる子どもの人権や教育および心理的機能、また小児保健センターの実践における子どもを取り巻く環境への介入や親に対する精神的社会的支援などの特徴を整理した。また、就学前学校においては、医学的知見が指導法に活かされ、さらに健康問題のリスク予防にも留意されていることは特記すべきことであった。これらは、現在、日本における教育や福祉現場での医療的支援の在り方に示唆を与えるものであり、学会や論文発表、また保健・保育現場における研修等によって、その実践方法を紹介した。

研究成果の概要(英文)：The ways of support for children with neurodevelopmental disorders in Sweden were investigated. The investigations of medical, health care, educational and welfare measures and policies provided for the children in childhood and schoolage were performed multidirectionally and the phenomenon which medical knowledges were applied and embodied as the evidence was researched. In the medical aspect, the research products from Gillberg Neuropsychiatric Centre of Gothenburg University were sorted. Also, the supports utilizing medical knowledges for the children with difficulties from neurodevelopmental disorders provided for förskolan, förskola class and grundskolan in 6 cities in addition to the activities of Bryggan medical team in Gävleborg were investigated and reported.

研究分野：医学史 医療的支援 予防医学 小児保健 特別支援教育

キーワード：幼児 チャイルドヘルスケア 医療的支援 特別支援教育 スウェーデン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、応募者のスウェーデン研究ならびに日本の衛生・公衆衛生制度の歴史研究を踏まえ、これまで医学の知見と教育・保育現場での指導・支援方法とのダイナミクスと、その社会的文化的脈絡を考究してきた上に成り立っている。

スウェーデンにおける研究は 1997 年からであり、2014 年から科学研究費補助金助成により Gillberg Neuropsychiatry Centre 教授 E.Fernell 氏ならびに元学校医である A. Kågström 氏の研究協力を得て、医学・教育・保育を連環する資料を収集し、医学理論 ESSENCE (Early Symptomatic Syndromes Eliciting Neuro-developmental Clinical Examination、神経発達臨床所見としての早期徴候症候群、2010) を意識した支援システムが稼働する Sandviken における実践を研究対象に選び、児童精神科クリニック、ハビリテーションセンター、小児保健センターならびにオープン保育室、就学前学校、小・中学校、特別支援学校等における参与観察および専門職へのインタビュー調査を行ってきた。他方、2014 年からはフランスにも目を向け、小児ヘルスプロモーション担当医師の協力を得て、小児・学校保健と特別支援教育・療育との連動性についてのパイロット研究を行った。

近代日本の衛生制度では、平成 16 年～平成 19 年度科学研究費補助金研究「近代日本における医療・保健・福祉の連携とその変遷」において、一次資料を用いて衛生制度の社会的機能を分析した。さらに、ドイツ精神医学に基づいて子どもの障害や社会病理を捉え多領域専門職による包括的支援の一例を示した三田谷啓に注目した。三田谷の病態理解や実践には、時代を超えて現在のスウェーデンにおける医学理論や保育・教育の実践と共通する要素があり、発達の障害に対する支援の普遍的要素を考究したいという動機に繋がった。

また、2001 年 WHO による ICF (国際生活機能分類) が示した「生きることの困難さ(障害)」に対する理解と支援の考え方、2006 年国連採択の「障害者権利条約」、そして、2013 年 DSM-5 (精神疾患の診断と統計の手引き第 5 版) の診断基準などのグローバルな動きはスウェーデンの政策指向とも重なった。日本では 2016 年「障害者差別解消法」施行により、神経発達症群のある子どもに対して支援ニーズがより高まっている。医学の知見は教育・福祉(保育)現場での障害概念や支援の在り方とどのように連環されようとしているのか、スウェーデンモデルの効果検証を通して日本において実践可能な指導モデルを提示したい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、福祉・教育の現場において、神経発達症群(自閉スペクトラム症、注意欠如多動症など)の医学的知見が応用され涵養され具現化されている現象を分析することにある。その細い系譜は 1980 年代からみられており、スウェーデンの教育・福祉現場における活用方法や有効性に関わる評価にも注目する。本研究には、神経発達症群に関わる医学的知見が、教育・福祉制度や実践に及ぼす影響、とくに医学的知見と教育・福祉現場での障害概念や支援の考え方の相互作用について経年的に検討し、日本における保育・教育現場での状況や社会的文化的脈絡を考慮した神経発達症群に対する実践可能な指導モデルを提示するという遠大な目的がある。

3. 研究の方法

(1) 基礎作業として、医学とくに疫学研究の論文整理を継続し、ESSENCE の系譜となる 1980 年代からのコホートスタディや ESSENCE を基底とした疫学研究や「状態対応」としての包括的支援に関わるギルバーク精神神経センターメンバーによる主要論文を中心に整理分析し、その理論的特徴を明示する。

(2) 神経発達症群の医学理論 ESSENCE を具現化したスウェーデンの施策事例として、保健・保育・教育を包括し協働する Bryggan システムの効果検証を行う。保健システムと教育(保育)システムとの連環による発達支援の効果を、関係資料ならびに医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士ならびに特別支援教育指導教員や保育士などに対するインタビュー調査と参与観察によって明らかにする。

(3) Gavleborg と Stockholm の障害児施設、就学前学校で取り入れられているスヌーズレンやアウトドア教育、レッジョ・エミリア教育法に関して、現場の専門職による説明から障害のある子どもに対する発達支援効果を明らかにする。

(4) スウェーデンの神経発達症群の子どもに対する支援を構成する医学的知見と現場での経験値に、社会的文化的脈絡を重ねて、先行研究論文を整理し、これまで研究してきた日本における医学理論と障害児教育の事例と比較して、障害の概念規定、ニーズ把握と保育・教育的支援、合理的配慮に関わる時代的地域的固有性と普遍性について分析する。

4. 研究成果

【2017 年度】

(1) 神経発達臨床所見に関わる医学理論の分析 : C.Gillberg ならびに E.Fernell らのグループが行っている、神経発達障害のある子どもたちの臨床研究について、特に Fernell が関わった自閉スペクトラム症 (ASD) の疫学研究を論文としてまとめて学会誌に掲載された。

(2) スウェーデンにおける特別な教育的課題のある子どもたちの教育・支援に関する調査 : Stockholm 市を中心に訪問し調査研究を行った。今回教育関係で、基礎学校 (日本の小学校中学校に相当) 4 校、就学前学校 (日本の幼稚園、保育園、こども園に相当) 2 校を訪問した。基

礎学校では、特別支援教育とインクルーシブ教育との両立について焦点を当てた。1校では、子どもが有する能力を詳細に検討し、領域ごとに個別の取り出しを行ったり、通常学級で学ばせたり工夫を行っていた。また他の1校では、少人数で、その中に注意欠如・多動症、ASD、ダウン症などが含まれ、2名の担任のうち1名が小学校1~3年生まで担任として持ち上がり、SSTを取り入れながら、子どもの主体性・子どもの認知を育む取り組みを行っていた。小学校1校では、2018年度から義務教育に組み込まれる就学前クラスの特別支援教育について参与観察した。各児童にiPadを貸与し、教室の壁は構造化され、算数計算につながるような課題も示されていた。就学前学校の参与観察では、レッジョ・エミリア教育法を基にした、活動テーマを決めたプロジェクトと製作も含めたあらゆる手段を活用した記録が行われており、特別支援教育も視野に入れた教育が提供されていた。

(3) スウェーデンの就学前クラスに関する保護者向け公報の解説：スウェーデン政府が提供している、英語で書かれた「就学前クラス」に関する公報の抄訳の論文発表を行い、スウェーデンが目指している教育の一端を示した。

【2018年度】

(1) 就学前学校における教育の視察：2018年度、2回スウェーデンを訪問した。その中で、就学前学校は7校において、参与観察を行い、可能な場合にはインタビュー調査を行った。特に、スウェーデンの就学前学校におけるインクルーシブ教育と特別支援教育を両輪とするレッジョ・エミリアにインスパイアされた教育方法を対象とした。アトリエリスタによる美術・工芸の指導、プロジェクト教育やドキュメンテーションから、多様性を包摂する幼児教育の在り方を観察した。また、レッジョ・エミリア・インスティテュートを見学し、専門職を養成する研修内容とシステムについてもインタビュー調査を通して情報を収集した。この成果は学会ならびに教育関係の冊子で紹介した。

(2) 医師の講演会：2018年度には、研究協力者の一人である元教育委員会所属のスウェーデン人医師 A.Kågström 氏を招聘し研修会と講演会を大阪府下と和歌山県下で開催した。内容は、神経発達症群の範疇に困難さがある幼児に対する早期気づきと支援、そして、学齢期における「みため」と支援である。日本でも組み入れることができる要素があり、好評を得た。

(3) 不登校児への支援の試み：不登校児（理由は悪性腫瘍や発達障害など）に対する教育保障の一つの手段として、医療と教育が連携する訪問支援や、分身ロボットを活用する試みについて教育委員会と病院での担当者に対するインタビュー調査を行った。この成果は、教育関係の冊子で紹介した。交流学习の一つの試みとして、今後、日本での実践と比較検討していきたい。

【2019年度】

(1) Gillberg Neuropsychiatry Centre における神経発達臨床所見に関わる医学理論を時系列的に整理分析した。(2) 医学理論 ESSENCE を具現化した小児保健・学校保健のシステム構築プロセスと実践効果について整理した。これら2項目の結果として、Gillberg Neuropsychiatry Centre における神経発達臨床所見を活用して、Gävleborg における乳幼児支援システム組織での活動を拡充している様相を調査した。そこでは、システムの一つである Bryggan を中心に、コーディネーターならびに利用者である保護者に対する半構造化面接を行い、システム化された保護者個別支援ならびに啓発プログラム (PRIMUS) が有用であったことを確認した。(3) 教育・福祉(保育)・訓練(療育)の場から、障害のある子どもに対する発達支援的効果を経験値から分析し、医科学研究成果と相対化した。就学前学校・基礎学校およびハビリテーション・小児保健センターにおいて、施設での参与観察と専門職に対する非構造化面接を行った。その中で、Stockholm における教育システム(基礎学校と就学前学校)において、special pedagogue(特別支援教育を企画・主導する教員)が医療専門職と連携し支援を提供できるシステムが構築されており、神経発達症群の子どもたちに対して、医学的知見を根拠にした系統的支援の可能性が認められた。(4) 小児保健センターにおける包括的なケアの在り方を、行政資料から整理し、社会的機能を分析した。この結果は、大学紀要において発表した。

以上のデータも含めて、スウェーデンの幼児期における医療・保健・教育を横断する神経発達症群をめぐる考え方と実践の様相を中心に、専門職の視点や社会システムとしての機能について論文を発表した。また、保護者に対するインタビューを含めた Bryggan の有用性については執筆中である。

【2017~2019年度まとめ】

(1) Gillberg Neuropsychiatry Centre における神経発達臨床所見に関わる医学理論の分析

就学前の保育・教育現場において、発達に課題がある子どもたち、とくに自閉スペクトラム症(ASD)の特性を有する幼児への支援指導が模索され講じられて久しい。しかしながら、この時期に的確な診断を下すことは容易なことではなく、その理由の一つとして、神経発達症群は他の障害を併発することがあり、つまり複数の障害の診断がしばしば併存することが指摘されている。この指摘に関連して、Gillberg Neuropsychiatry Centre の Fernell らが行った疫学研究17編に注目した。その結果、就学前にASDと診断を受けた幼児の大規模な自然的研究による前方視的調査により、ASDに気づかれた年齢、ASDの病態やタイプ、知的発達レベルなどによって、予

後や介入の結果が異なること、さらに神経発達症群は診断名が変化することも明らかになった。さらに一部の例では、自閉スペクトラム症の状態から「治癒した」とも取れる状態に移行する可能性があることも明らかになった。以上から、就学前には、診断にこだわるよりも、一人一人の子どもに適した支援を、多領域の専門職により、継続的に提供することの重要性が示唆された。

(2) 医学理論 ESSENCE を具現化した小児保健・学校保健のシステム構築

3年間の研究期間を通して、スウェーデンにおける神経発達障害の範疇にある幼児への支援システムの一例として、4~6歳児を対象とする Bryggan という組織を縦断的に研究した。その活動の始まりは、神経発達症群のある子どもたちの初診待機期間が長いため、十分な支援を迅速に受けることができない現実から始まっていた。その特徴として、以下の点が指摘できる。

- ・多職種の専門職の参加により専門性が向上し、医療機関ではじめて解決できたことが、ブリガンで解決できることが増えた。

- ・待機時間が短くなり、アクセスが容易である。

- ・義務教育のより良いスタートなど、明確で大局的な目的を掲げている。

- ・子ども一人一人と親にも寄り添う支援の緊密性と継続性がある。

- ・社会全体での理解が必要であるという考え方のもと、地域社会への発信と理解の広がりを求めた。

- ・子どもを取り巻く地域の社会的資源を横軸・縦軸につなぐという、支援の橋渡しを行う。

- ・専門職など支援の担い手を養成する。

- ・幼児期に限らず、学童期に入っても、継続して、助言や提言を行っている。

このように、神経発達症群の範疇にある子どもたちに、適確で迅速な支援を提供できるという点で、優れたシステムであるとともに、保護者支援にも力を入れており、専門職も含めた包括的な支援を行っている点が特筆される。

(3) スウェーデンの乳幼児期健康診査システム

スウェーデンでは、乳幼児期の健康診査は、小児保健センターで行われる。基本的には、担当看護師が決まっており、同じ担当者が学校に入学するまでの間フォローしていくことになる。その場合、担当する子どもだけではなく、家族も含めたフォローとなっていくことも特徴の一つと考えられる。

スウェーデンにおける健康診査の基本として、都市や田舎などどの地域に住んでいたとしても、同じレベルの知識と技術をもって、健康診査が行われることが求められている。

そのために、国としても健康診査のためのマニュアルを作成している。それが、Barnhälsöversynsprogrammet (直訳すると「チャイルドヘルスケアプログラム」と呼ばれるもので、ウェブ上に公開されており、健康診査に係る専門職が参照することができるものである。そのプログラムに書かれている、さらに専門性を必要とする用語については記がついており、クリックすることで、その用語を説明するウェブ上の部位へとつながることができる。

乳児期では、生後0-6日、1-3週、4週、6-8週、3-5か月、6か月、8か月、10か月という区切りで、それぞれの時期におけるおおよその発達程度あるいは遅れがあるかもしれないと注意の必要な項目が載せられている。項目として、予防接種、運動、コミュニケーション、親との関係、睡眠、家庭背の生活状況、歯の健康などの項目が設けられていて、それぞれについて専門職が参考にできるような作りになっている。

幼児期はいると、12か月、18か月、2歳半~3歳、4歳という時期を目安に、身長や体重はもちろんのこと、予防接種、言語・コミュニケーション、運動、睡眠、排泄、身体各部の異常などを中心に、チェックポイントが述べられており、それに沿った健康診査を行っていく。

健康診査で何か気になる点が出てくれば、巡回している小児科医や、小児病院、さらには生涯の内容によっては、BUPやハピリテーションに紹介することになる。

(4) 日本版多層指導モデルとしてのMIM指導

スウェーデンにおいても読み書き障害のある子どもに対して多層指導モデルが取り入れられているが、日本版の多層指導モデル(MIM: Multi-layer Instruction Model)を活用した、A市内全7小学校における通級による指導(「個別の指導教室」を含む)の体制強化とMIM実践(MIM指導+MIM-PM)導入の経緯を整理するとともに、MIM実践の方法について1年生通常学級担任と通級による指導担当教員対象にアンケート調査を行った。初年度は1校でMIM実践を開始し、3年間で全7校にMIM実践を導入した。また、全校でMIM実践を導入した年には、4校で通級指導教室が、他の3校では「個別の指導教室」が設けられており、自校で個別の指導が可能な体制が整った。MIM実践では、MIM-PMによって児童の「読み」の力を3ステージに分け、各ステージに呼応する一斉指導、小集団指導、個別の指導を取り入れたMIM指導の取り組みがみられた。指導については、KHCoderを用いた分析により、MIM実践内容や指導法と共に実践に対する教員間連携や情報共有のカテゴリーが認められた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小野尚香、宮村裕子	4. 巻 100
2. 論文標題 Special needs education and social education in the perspective of lifelong education: Practical activities of Hiraku Sandaya in Juvenilesanatorium, school, and community	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学史研究	6. 最初と最後の頁 5-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小野尚香	4. 巻 108
2. 論文標題 スウェーデンにおける知的障害のある子どもの特別支援教育～2014年学校庁発行『知的障害のあるあなた の子どものための学校』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小野尚香	4. 巻 107
2. 論文標題 スウェーデンの特別支援教育と就学前クラスの理念～多様性を尊重し主体性をはぐくむ教育：2006年公報 ～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 127-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小野尚香	4. 巻 546
2. 論文標題 ICF(国際生活機能分類)を「自立活動」に活かす ～知的障がいのある子どもへの支援の一例～	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 545
2. 論文標題 特別支援教育の弾力的な運用 ~特別支援学級担当教員の活用へ~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 544
2. 論文標題 グローバルな視点からみる特別支援教育 ~障がいのある子どもの教育に対する国連の旗標から~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 543
2. 論文標題 スウェーデンにおける言語・コミュニケーション発達の評価と支援 (2)乳児期 :対話のはじまり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 542
2. 論文標題 スウェーデンの乳幼児期における言語とコミュニケーションの発達(1)子どもの発達を支える「特別な支援」と専門職の役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 105
2. 論文標題 自閉スペクトラム症の病態についての文献的検討～ビタミンDならびに遺伝に関するE.Fernellらの論文を中心に～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 8575-8585
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 40
2. 論文標題 発達障害が疑われる幼児の診断および支援に関する疫学研究の紹介～E.Fernellらの自閉スペクトラム症を対象とした論文を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本発達障害学会誌	6. 最初と最後の頁 152-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 107
2. 論文標題 特別支援教育を基底とする6歳児教育～スウェーデン「特別支援クラス」に関する保護者向け公報～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 8943-8954
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 529
2. 論文標題 発達障がいと特別支援教育-子どもたちのインクルーシブ教育-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 530
2. 論文標題 発達障がいと特別支援教育-文化現象としての発達障害-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 531
2. 論文標題 発達障がいと特別支援教育-病態をこえて I C F を活用する-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野 尚香	4. 巻 532
2. 論文標題 発達障がいと特別支援教育-障害を特性として包摂する幼児期の学びのデザイン-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 107
2. 論文標題 多様性を尊重する社会と基本的人権～スウェーデン「差別法 Diskrimineringslag, 2008」から～	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 139-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 110
2. 論文標題 幼児期前期の「言語・コミュニケーション」発達の評価とその特徴：スウェーデン "Barnhalsovardsprogrammet"から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 醫譚	6. 最初と最後の頁 9429-9439
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香、木村志保、小野次朗、柘植雅義	4. 巻 16
2. 論文標題 多層指導モデル (MIM)実践導入と通級指導教室利用に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 畿央大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 16
2. 論文標題 乳児の発育・発達を支える "Barnhalsovardsprogrammet" : スウェーデンにおけるナショナル・チャイルド ヘルスケアプログラム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 畿央大学紀要	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香、出来麻有子	4. 巻 555
2. 論文標題 特別支援教育の未来へ：人権を基底としたスウェーデンの取り組み～LGBT(SOGI)に対する理解を涵養する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香、平岡彰代	4. 巻 556
2. 論文標題 特別支援教育の未来へ～「学校」という社会への参加を促す分身ロボット～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野尚香	4. 巻 557
2. 論文標題 特別支援教育の未来へ：多様性を包摂するスウェーデンの幼児教育～子どもの学びの主体性と、先生の教育力を育むレジジョ・エミリアからの息吹	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 育誠	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小野尚香
2. 発表標題 スウェーデンにおける幼児期ナショナルプログラム「言語発達」に関して
3. 学会等名 日本医師学会関西支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野尚香、中澤理代、鈴木祥文、柘植雅義
2. 発表標題 発達に課題のある幼児に対する支援の構成要素と専門職の役割 ～療育と保護者支援を両輪とするA町社会福祉協議会の実践を通して～
3. 学会等名 日本LD学会第2回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野尚香
2. 発表標題 多様性を包摂する幼児期の特別支援教育 ～スウェーデンにおける就学前学校の実践についての報告～
3. 学会等名 日本LD学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野尚香
2. 発表標題 スウェーデンにおける乳児期のヘルスプロモーション
3. 学会等名 日本医史学会関西支部秋期学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野 尚香
2. 発表標題 生涯教育の礎となる就学前特別支援教育の実践 - マクロレベル・メゾレベル・ミクロレベルからの包括的検討 -
3. 学会等名 日本LD学会第26回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野 尚香
2. 発表標題 スウェーデンの就学前特別支援教育における専門職の役割 - 巡回指導と包括的支援を担うspecial pedagogueの実践 -
3. 学会等名 日本LD学会第26回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野 尚香
2. 発表標題 神経発達症群のある子どもに対する特別支援教育の一例 - スウェーデンの医療施設に併設された学校の事例から -
3. 学会等名 日本LD学会第1回研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野 尚香
2. 発表標題 スウェーデンにおける就学前学校（幼児教育）に関する公報～外国人を含めたインクルーシブ教育の起点として～
3. 学会等名 日本医史学会関西支部秋季総会・学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----